



報道関係者各位

2021年1月21日  
株式会社アストロスケールホールディングス

**スペースデブリ問題に取り組むアストロスケール  
民間世界初デブリ除去技術実証衛星 ELSA-d がバイコヌール基地に到着  
～2021年3月20日の打ち上げを決定～**

持続可能な宇宙環境を目指し、スペースデブリ（以下、宇宙ごみ、デブリ）除去を含む軌道上サービスに取り組む株式会社アストロスケールホールディングス（本社：東京都墨田区 以下「アストロスケール」）は、世界初、スペースデブリ除去技術実証衛星「ELSA-d（End-of-Life Services by Astroscale – Demonstration）」が、カザフスタンバイコヌール基地に到着し、2021年3月20日の打ち上げが決定したことを発表いたします。ELSA-dは、GK Launch services がオペレーションを担当するソユーズロケットに搭載され打ち上げられます。

カザフスタンへの到着を受けて、アストロスケール 創業者兼CEO 岡田光信は以下のように述べています。

「いよいよロケットへの衛星の搭載、英国の軌道上サービス管制センターによる運用制御テストなど、打ち上げ準備の最終段階に入ります。 昨年の世界的パンデミックを乗り越えて、私たちチームは、ミッションの実行に集中し、すべてのマイルストーンで新たに学び、適応し、前進してきました。 ELSA-dがバイコヌールに到着したことで、私たちのデブリ除去能力を世界に示すことに一歩近づきました。私はチームを誇りに思い、打ち上げに胸を高鳴らせています。」

ELSA-dのミッションは、スペースデブリの捕獲と除去に必要なコア・テクノロジーを初めて実証するものであり、軌道上サービスを拡大し、将来の世代のために安全で持続可能な宇宙を実現するというアストロスケールのビジョンを達成するための大きな一歩です。

### **アストロスケールについて**

アストロスケールは、宇宙機の安全航行の確保を目指し、次世代へ持続可能な軌道を継承する為、スペースデブリ（宇宙ごみ）除去サービスの開発に取り組む世界初の民間企業です。2013年の創業以来、軌道上で増加し続けるデブリの低減・除去策として、今後打ち上がる人工衛星が寿命を迎えたり恒久故障の際に除去を行う EOL<sup>※1</sup>サービスや、既存デブリを除去する為の ADR<sup>※2</sup>サービス、宇宙空間上での宇宙状況把握（SSA<sup>※3</sup>）、稼働衛星の寿命延長（LEX<sup>※4</sup>）など軌道上サービスの実現を目指し技術開発を進めてきました。また、長期に渡り安全で持続可能な宇宙環境を目指す為、

※1 EOL: End-of-Life の略称

※2 ADR : Active Debris Removal の略称

※3 SSA: Space Situational Awareness の略称

※4 LEX : Life Extension の略称

技術開発に加え、ビジネスモデルの確立、複数の民間企業や団体、行政機関と協働し、宇宙政策やベストプラクティスの策定に努めています。  
本社・R&D 拠点の日本をはじめ、シンガポール、英国、米国、イスラエルとグローバルに事業を展開しています。

アストロスケール本社ウェブサイトはこちら：<http://astroscale.com>

**【本件に対する報道関係者からのお問い合わせ先】**

アストロスケール 広報

Eメール：[media\\_asjp@astroscale.com](mailto:media_asjp@astroscale.com)

電話番号：

03-6658-8175（日本） | +44-1235-395-359 (英国) | +1-202-744-8127 (米国)